

水墨画家鐘章法の制作理念と美術教材化

鐘 朝芳^{*1}・福田 隆眞^{*2}・王 宇鵬^{*3}

On the Idea of Chinese Ink Painter Zhong Zhang Fa and it's Teaching Material in Art Education

ZHONG Chao-Fang^{*1}, FUKUDA Takamasa^{*2}, WANG Yu-Peng^{*3}

(Received December 21, 2017)

キーワード：中国、水墨画、鐘章法、美術教育、教材

はじめに

中国の現代の水墨画家の鐘章法は伝統的な水墨画の中から雲に着目して、雲海をモチーフに制作活動を続けている。そして、そうした雲海の表現を基盤として、宇宙を表現する抽象画にも類似している新たな水墨画の表現様式である時空水墨画を開拓している。

本稿では鐘章法の水墨画の制作理念と表現意図を解説し、美術教育における新たな水墨画の教材としての可能性を述べる。

1. 鐘章法の略歴

鐘章法は、1948年に浙江省武義に生まれた。中国美術家協会会員で、雲法造境・時空水墨画と雲海画派の創始者で、雲海画院（国家民政部が管理）の常務副院長と秘書長を務めている。彼は数十年間にわたって中国画の創作と研究を行っている。

鐘章法は、芸術の革新のために1991年から2000年まで黄山に住み、写生を行った。その時、伝統的山水画の中では軽視されていた雲を深く観察した。そして、雲を創作の主たる要素とし、芸術の突破口として「雲法造境」という新課題、新様式を切り開き、オリジナリティを持つ雲海山水画と時空水墨画の2つのシリーズの作品を創作した。また、多くの論文を中国の美術雑誌の『美術』、『美術観察』などに発表した。現在、鐘章法の「雲法造境」は理論から実践への独特な個人の芸術の思想体系となっている。

2001年、中国芸術研究院美術研究所は北京の中国美術館で「黄海の歌－鐘章法水墨雲海画展と学術研究会」を開催した。2010年には、中国美術家協会芸術委員会が同じく中国美術館で「雲法造境－鐘章法作品展と学術研究会」を開催した。美術界の専門家は鐘章法の雲海山水画と時空水墨画の2つのシリーズの作品に高い評価を与えた。

鐘章法の代表的作品集は『中国近現代名家画集－鐘章法』、『中国画名家技法シリーズ：雲海山水技法全解』、『鐘章法雲法造境作品選：山水画・時空水墨画兩大シリーズ』などである。

2. 鐘章法の制作理念：雲法造境と時空水墨画

大自然の風景をテーマにした山水画は、何千年もの間、常に画家たちの創造と発展を経て、非常に高い水準に達したが、一方で創作の様式化が固定した。人々がその様式を突破することは非常に困難である。歴代、数々の巨匠が輩出したにもかかわらず、彼らはほとんど山水画の固定された様式と踏襲した創作のモデルから離れることができず、元の創作のモデルに基づいて発展する機会を得た。そのため、新しい美術の様式はほとんど出現していない。

*1 中国浙江省浙江師範大学准教授 山口大学東アジアラボ研究員 *2 山口大学理事・副学長 *3 山口大学大学院東アジア研究科

鐘章法によれば、芸術にとって重要なことは創造で、筆墨は時代の発展に順応するわけである。伝統的な山水画様式の枠にとどまらず、中国の伝統文化の精神を発揚するとともに、独特な筆墨の言語や時代の息吹を持ち、中国絵画の追い求めている最高の境地「天人合一」という芸術精神から離れることのない新しい芸術の創作様式を切り開くことは、その時代の画家たちに与えられた神聖な使命である。（注1）

雲法造境で時空水墨画シリーズを作り上げることは、鐘章法が数十年間に渡り努力している目標である。

「雲法造境」は鐘章法が何十年も探求し研究してきた課題であり、芸術の革新を実行するために生み出した新たな創作スタイルでもある。「雲法造境」という言葉は『辞海』（注2）にはないが、それは鐘章法が意識的に伝統的な絵画モードとは異なる、芸術革新のタイトルの便宜のために創り出したものである。簡単に言えば、「雲法造境」の作品は伝統的な山水画の中で空白の部分、或は軽く処理した自然の雲を芸術創作の主要な元素とし、文人内包を持つ創作様式と表現手法を重視し、神秘的な雲の美しさを独自の手法で表現したのである。

「雲法造境」で創作した山水画は「雲法造境」の創作理念と方法を用いて伝統的な山水画の表現方法と融合するものである。例えば、変化に富み壮観で予測がつかない雲を芸術創作の主たる要素とする。そして、それを媒介にして大地、山河、樹木などのあらゆる景物を整合し、雲の動きに合わせ、空と大地が全体となる。それによって、生命力が満ち溢れている大自然を表現する。これは大象無形（注3）と無始無終（注4）の美感と芸術の域である。彼は「雲法造境」の絵画様式を通して、伝統的山水画と異なる芸術効果を求めて努力している。鑑賞者がこれらの作品を見れば、従来のお水墨画との違いは一目瞭然であろう。

「時空水墨画」は鐘章法が独自に開発した表現形式であり、創作理念や境地、筆墨言語などの面において伝統的山水画と異なる。従って、「時空水墨画」と伝統的山水画とは異なる2つの芸術様式と言える。伝統的山水画は山河や樹木、家屋など具体的に見えるものを表現している。しかし、「時空水墨画」は宇宙の無限性や日月の陰陽、天地の動静に注目し、大自然のマクロの景色と印象を表現している。このマクロの景色と印象は、人間が宇宙にいて地球を見下ろすようである。鐘章法が観察したのは、大地や山川、雲海、海の輪郭である。彼が感じたのは、雲のような、海のような、山のような広大で無尽な宇宙の人生観のマクロの体験である。

具体的に言えば、「雲法造境」による「時空水墨画」を作り上げるのは、雲の動きの趣を画面の主たる旋律とし、空や大地、山川などのいわゆる景物をこの旋律に巡らせて展開することである。そして、雲を仲介として天と地を整合する創造的表現要素である。さらに、天地空濛や日と月が互いに照り映えているような様々な神秘的な時空である。そのため、「時空水墨画」を目の前にした時、鑑賞者はあたかも宇宙に身を置き、地球の広大な山川を見下ろすような境地となる。画面には具体的な形はないが、親近感を持つ。したがって、これらは「時空」という言葉のみで総括するのがふさわしいであろう。「時空水墨画」は伝統的山水画と比べると、伝統文化の「天人合一」（注5）の芸術精神、及び「大音希声、大象無形」の神域を表している文化的特質を持っている。

3. 鐘章法の作品紹介

ここでは鐘章法の近年の代表的な作品について、時空水墨画と雲海山水画に分けて解説をする。解説の内容は鐘章法自身が筆者の一人の福田に語ったものである。（注6）

3-1 時空水墨画の作品

3-1-1 「波光」（波に反射した光）（2004）

伝統的山水画において、山は山であり、雲は雲であり、海は海であり、筆と墨で描写したのは具体的な見えるものである。しかし、この作品は「時空水墨」の画法で山のような、海のような、雲のような画面の境地を作り上げた。そして、山は海のように、海は雲のように、山と海、雲が一体となったものを表現している。（図1）

3-1-2 「大象無形」（極めて大きなものは形として見えない）（2002）

この作品は山と海、雲の共通のリズム感を把握し、「雲と山は共に踊り、山と海は同じ趣がある」の芸術の効果に達した。荘子が述べているように、「天地有大美而不言（天地は大美あるも言わず）、四时有明

法而不议（四時は明法あるも議せず）、万物有成理而不说（萬物は成理あるも説かず）。”（日本語訳：天地自然は大きな優れた働きを遂げながら、そのことを言葉では言わない。四季の巡りははっきりした法則を持ちながら、それを議論したりはしない。万物はそれぞれの道理を備えながら、それを説き明かすことはしない。）（図2）

3-1-3 「山海魂」（山と海の魂）（2008）

伝統的山水画は静態の美を追求しているが、時空水墨画は宇宙時空の動態の美と全体の美を体現している。この作品は大自然のマクロの感じから、山と海、雲が一体となった神秘的な時空の境地を表現している。（図3）

3-1-4 「秘境天開」（天外より落ちた神秘的な世界）（2005）

時空水墨画家の創作目標は自身が宇宙に対する反応を表現することであり、独特な個性の作品を作り上げることである。この作品は天と地を整合しようとして、天地空濛や日と月が互いに照り映えているような様々な神秘的な時空を表現している。（図4）

3-1-5 「放眼天地間」（天と地目を向ける）（2010）

この作品は、人間が天と地の間に身を置き、天地万物の命のある限りを見下ろす心持ち、及び水墨画で宇宙の激しい変化や律動と奇妙に変化する空間を表現しており、鐘章法の理論から実践への独特な個人の芸術の思想体系となっている「雲法造境」に基づいて作り上げた新しい内容や形式、境地を持つ時空水墨のシリーズの作品の一つである。（図5）

3-1-6 「永恒」（永遠）（2011）

この作品は山と雲、海が時空での互いに呼応する関係を描写し、混沌とした天地が初めて開かれることや天地空濛、輪廻歳月を表現している。（図6）

3-2 雲海山水画の作品

3-2-1 「曠野遺韻」（荒涼たる原野の趣）（2008）

この作品は秋の時節に天と地を覆った趣を表現している。その中の景色は大自然においてどこでも見えるようであるが、具体的な場所を指摘することができない。これは芸術家が創造した理想的な境地である。中国画の創作は、見られたものを描くことではなく、画家が想像したものを描くことである。この作品は、そのようなもので画家の心の中の大自然を表現している。（図7）

3-2-2 「銀白世界」（2010）

この作品の中できらびやかな色彩を用いず、黒と白の色のみで清浄な天と地を表現している。この作品は黒と白の色のみで清浄な天と地を表現している。筆と墨の技法の表現では、雲によって他の画家と異なる表現方法と芸術様式を作り上げた。（図8）

3-2-3 「天工造化勢自成」（2010）

ロダンが述べているように、芸術家にとっては自然の一切が美である。よって、雲の不規則に変化する趣の美を発見することを「雲海山水画」の目的としている。そして、雲を芸術の創作の主たる要素と題材とし、山水画の新しい境地や表現方式を切り開く。この作品の中の滝のような雲は写実した雲ではなく、芸術的表現を通して作り上げたものである。この作品は客観的な物体と主観性と融合した芸術と人文の境地を表現している。（図9）

3-2-4 「雲天浩蕩」（壮大な天空）（2014）

境地とは芸術家の主観的な思いと自然の景物と互いに融合して作り上げたものである。もし中国画家は自己の芸術思想や精神境地を昇格させなければ、「天人合一」の独特な境地を持つ作品を作り上げることができない。このような芸術の境地はこの作品の創作理念としている。この作品は人間が自然に身を置く時、

不規則に変化する雲海に直面した反応と天・地・人間を一体になる境地を表現している。(図10)

3-2-5 「雲山放歌」(山と雲に身を置き声高らかに唄う)(2015)

この作品は山の中の雲海を描写した。「雲法造境」は雲を描くために雲を描写するのではなく、雲を通して思いを表現する。その目的は、人間と大自然を一体になる精神的な境地を開拓し広げることである。これは雲と山を通して、人間の思想感情を注ぎ込んだ作品である。(図11)

3-2-6 「追魂」(魂を追う)(2007)

中国における月は、これまで一貫して芸術家の絵画表現の対象であり、清らかな思想を象徴していることでもある。この作品は満月の光が照らした天と地の美及び人間と月が合一した芸術の境地を表現している。(図12)

4. 水墨画の教材化

中国の小中学校において水墨画は美術教育の重要な教材の一つである。伝統的な美術の教材であり、伝統を継承し美術文化を伝えていくという意味でも重要であり、同時に、伝統文化の新たな創造という観点からも重要な教材となっている。

例えば、図の13は中国の中学校1年生の美術教科書の題材の一つである。(注7)題材としては「詩情画意」として、水墨画の表現の意図を学習する内容となっている。中国人にとって大自然を描写する作品を風景画とは言わないで、山水画という。山水画は独特な意味を持っていて、自然の描写ではなく、自然にあるものを要素として、作者の理念や感情を表現するものである。画家は自然の風景を媒介として自己の感情を表現している。その感情の中で、詩的な感情の境地を作り上げることである。(注8)

左の作品は毛沢東の詩を基に描かれた紅葉の作品である。右の上の作品は李白の詩を基にしたものである。そして下の作品は春の海と船を描いたものであるが、抽象的な表現を行っている。水墨の持つ特有の滲み、暈し、重なりを利用して心象を表現している。

山水画は自然の風景を対象として心象の表現をすることを基本としており、具体的な対象物が描かれることにより、鑑賞者にはその絵に対する導入が容易となる。具体的な対象に向かい合って、作者の内的な心象を深めることに水墨画の意義があると考えられる。そういう点で、鐘章法は長年にわたって雲海を描きながら、彼独自の人生観、世界観、人間観、宇宙や自然などを内省し、それらを表現してきたといえる。

中学校における水墨画の教材は自然の具体的対象を描くことで、作者の内面を表現するという高度な絵画であるともいえる。それは自然を見つめる機会であり、自然から内面を探求する機会ともなる。全くの抽象形態とは違った内面の表現である。外面から内面へ、そしてまた外面へとその過程を経ることで、美術教育の人間形成の目的に近づくことになるといえる。

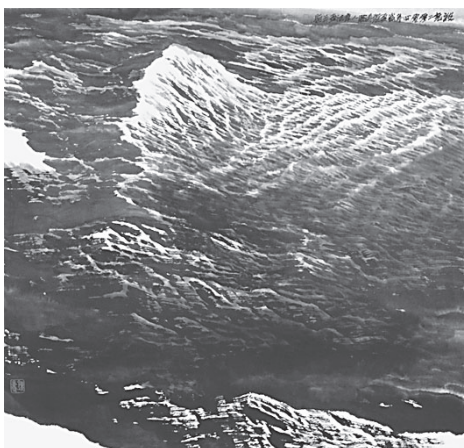


図1 「波光」

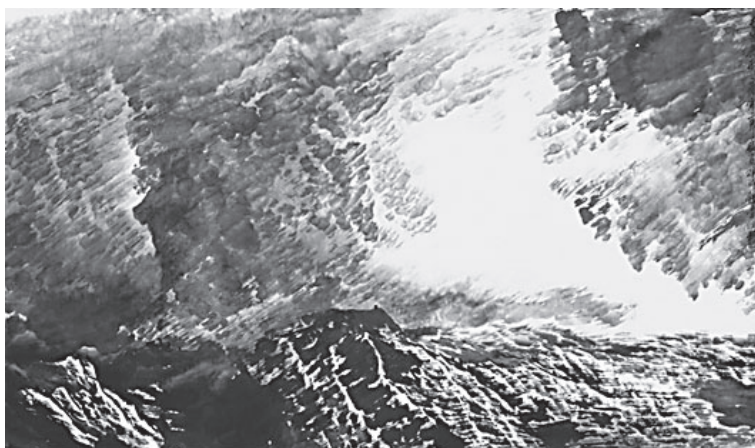


図2 「大象無形」

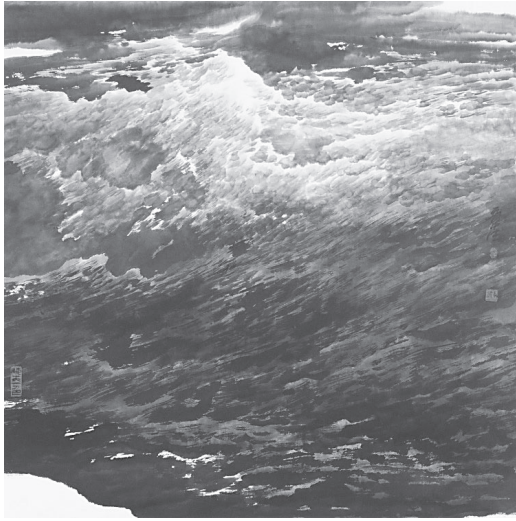


图3 「山海魂」



图4 「秘境天開」

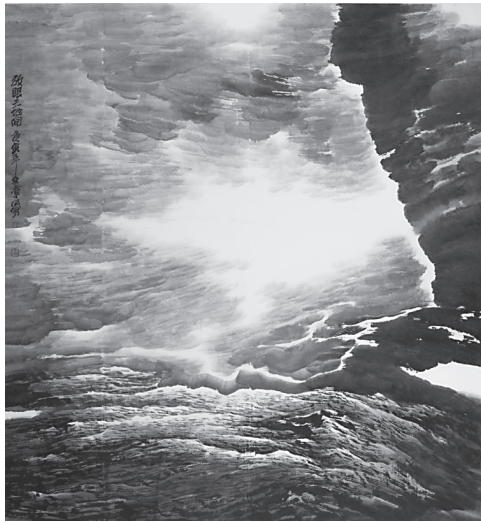


图5 「放眼天地間」



图6 「永恒」



图7 「曠野遺韻」

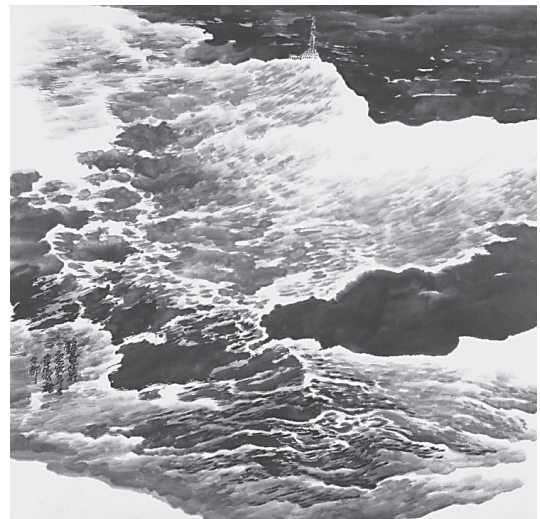


图8 「銀白世界」



图9 「天工造化勢自成」



图10 「雲天浩蕩」

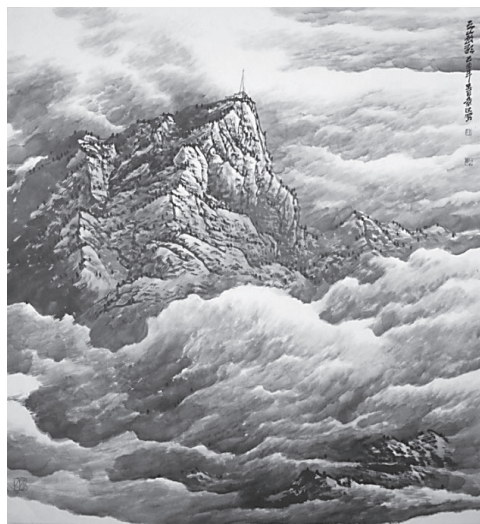


图11 「雲山放歌」

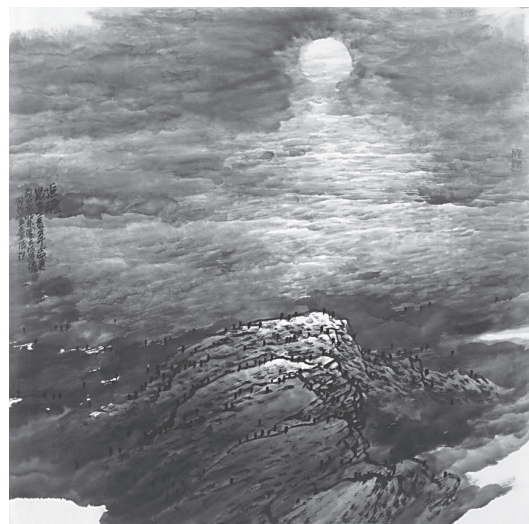


图12 「追魂」

6 诗情画意

了解传统山水画的基本知识，体会中国山水画的韵味。

中国人描绘大自然的作品称为“山水画”。因其“似真非真”，具有其他含义的，山水画卷聚着人类丰富的智慧与情感，体现了东方艺术的审美理想。画家描绘自然景物以表达自己的情感，在虚实交融中创造出富有诗意的“意境”。

知识链接

《庐山谣寄卢侍御虚舟》这幅山水画卷取材于毛泽东的诗，找出它诗画共赏分析一下，它是表现出怎样的意境？为什么？

庐山谣寄卢侍御虚舟（中国画）
现代 李可染

中国山水从东晋开始，历经宋、元、明、清以至近现代的演变，涌现出了许多伟大的画家，创作了无比丰富与珍贵的艺术珍品。五代、宋、元是中国山水画发展的繁荣时期，对后世影响极大。

溪山图（中国画） 范宽 董源
雁过图（中国画） 宋 马远

巴蜀杂画（中国画） 现代 徐伊少

古人说：“诗是无形画，画是有形诗。”山水画家追求的正是“诗画一体而意无穷”的境界。苏东坡评价唐代王维的水墨画和诗是“诗中有画，画中有诗”。这幅《巴蜀杂画》是否把李白的诗意境给出来了？

学习建议

- 搜集你喜欢的山水画，谈谈你对山水画的意境的理解。
- 写出一个山水画家的主要生平及作品，并谈你的认识。

春水同舟（中国画） 现代 谢天平

除水墨山水外，传统山水画主要有设色山水和兼工带写山水两种风格。设色山水以青绿为主，兼施赭石、赤黄、丹、赭、石绿等矿物颜色。兼工带写山水则兼用工笔和写意，线条勾勒，设色淡雅，意境深远。

春山图（中国画） 董源
雪景图（中国画） 范宽
秋山图（中国画） 马远

图13 中国の中学校美術教科書 水墨画題材

注

- 1 2017年9月26日中国浙江省武義の鐘章法記念館における、本人へのインタビューによる。
- 2 中国の辞典。上海辞書出版社 2003年
- 3 「大象」とは「極めて大きなもの」という意味。つまり、「極めて大きなものは形として見えない」という意味の言葉である。『老子』の第四十一章に「大方無隅、大器晩成、大音希聲、大象無形。」とある。
- 4 始まりも終わりもないこと。仏教語で、死んでは生まれ変わる輪廻を永遠と繰り返すということから。
- 5 中国の世界観の一つで、天と人とは理を媒介にして一つながりだと考えるもの。
- 6 前掲1に同じ。
- 7 浙江人民美術出版社編 「義務教育教科書 美術 七年級 下冊」 浙江人民美術出版社 2012年
- 8 前掲書7 pp22-23

参考文献

古川達雄：『ロダンの言葉』，三笠書房，1952.

付記

本稿の作成に当たり、はじめにと第4章を福田隆眞が、第1章と第2章を鐘朝芳が、第3章を王宇鵬が執筆し、全体を福田がまとめた。また、取材と資料提供に快く応じていただいた鐘章法先生に感謝いたします。